

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立鏡中学校
-----	----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・「チーム鏡」で諸問題解決に組織で対応し、生徒・保護者・地域からの信頼を得る。 ・主体的・対話的で深い学びを軸とした授業改善に向けた校内研修が不十分であり、授業研究会の充実が図られていない。 ・特別支援教育を全職員で対応することへの意識が高まっており、特別支援教育の手法を生徒対応のスタンダードにする。
2 学校教育目標	ともに学び 心がふれあう学校
3 本年度の重点目標	①いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育の推進 ②特別支援教育の視点による生徒対応、支援を要する生徒の早期発見・早期対応 ③「チーム鏡」諸問題解決に組織で対応 ④すべての教育活動をキャリア教育へのコーディネート ⑤基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、主体的・対話的で深い学びの研究推進

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	●マイプランの成果指標を達成できたと回答した教師75.0%。 ○「学力向上に向けて、具体的に取り組んでいる」と肯定的な回答をした教師96.0%。	B	・多くの生徒を学びの場(授業)に戻すことができたが、教室内ではまだ学びに向かおうとしない生徒もいるので、今後、全生徒が学びに向かう力を育ててほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○グループ活動によらない主体的・対話的で深い学びの実践的研究の推進 ○生徒の学力向上、学習保障のため、家庭学習充実を目指した活動	○学びの成長を実感した生徒の割合80%以上 ○「平日の家庭学習の時間」1時間以上の生徒の割合80%以上	・生徒による評価の導入(年数回の質問紙調査の実施) ・ワークシートや宿題の工夫、保護者へのアプローチ	C	○「授業がよくわかる」と答えた生徒は1.2年生ともに80%に届かなかった。 ○平日の家庭での学習の時間については、全学年80%には大きく届かなかったが、30分以上を含めると8割近くの生徒が家庭学習を行っていた。	C	・今年はコロナ感染防止のため学校行事がなく、さみしく感じている。学校でのことを話さなくなる年齢だからこそ、参観する機会があるとよい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○質問紙調査の「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的な回答した生徒が70%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・保護者や地域の方と連携したボランティア活動の実施	A	○「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的な回答した生徒は79.1%。 ○「命や人権の大切さなど、心を育む指導に取り組んでいる」と肯定的な回答をした教師は100%。 ○コロナ禍の中、「保護者や地域との連携行事に参加するよう努めている」と肯定的な回答をした教師は62.5%。	A	・現代社会では、優しさや思いやりが備わっていることが大切である。相手の立場に立って、物事を考えることができる生徒になってもらいたい。 ・地区の道路に花を植えているが、中学生にもボランティア活動として、草刈りや花の世話を地域の方と連携して実施してもらいたい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていていると回答した教員70%以上	・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていていると回答した教師は96.3%。 ○いじめ対応についての職員研修や会議も年間に3回以上行った。	B	・楽しい学校生活を送っている。家でもよく学校の話をしてくれる。 ・同級生からの何気ない言葉でも、本人は傷つくので、言葉は選んで話してほしい。 ・自分から進んであいさつをする生徒が少ないと感じる。	・生徒指導主事 ・各学年主任
	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が70%以上	・生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み。	A	◎「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒は71.9%。 ◎コロナ禍の影響で、3年生の修学旅行は実施したが、1.2年生の体験活動は実施できなかった。	A	・鏡地区は、歴史や文化が豊かな土地である。郷土意識を高め、この地区に育ったことを誇れる生徒を育ててもらいたい。	・教務主任 ・各教科主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「朝食をとって登校する(健康に食事は大切である)」と考える生徒80%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行	A	●「朝食をとって登校する(健康に食事は大切であると考える)」と回答した生徒97.1%。 ○「朝食を毎日食べている」と回答した生徒91.3%。 ○「朝食は、毎朝食べさせるようにしている」と肯定的な回答をした保護者97.6%。	A	・朝食を毎朝、食べさせることは保護者として当たり前のことではあるが、中には朝食を取らないで登校する生徒がいることも聞いている。	・食育担当 ・養護教諭
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間以内)を遵守する職員70%以上	・定時退勤日(毎週水曜日)の励行 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定	B	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間以内)を遵守する教師は45.7%。 ○全職員の時間外勤務時間の平均46.0時間。	B	・コロナ禍の中、先生方も大変だと思う。感謝しております。	・管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○タイムマネジメント教育の導入による自主自立の精神の涵養	○タイムマネジメント教育の導入により、自身が意識するようになった教員80%以上	・タイムマネジメントを意識させる職場環境づくり	B	○退勤予定時刻をホワイトボードに記入することにより、タイムマネジメントを意識して業務改善に取り組むようになった教師77.8%。	B	・今年度、先生方が本当に頑張っていると思うので、とても有難く思っている。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の視点による生徒対応	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育の視点による生徒対応力が向上した教員が70%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施	A	○特別支援教育の視点による生徒対応力が向上した教師81.5%。	A	・特別支援教育の視点による生徒対応(スイッチを押さない)については、社会に出た場合を考えるとともに厳しい指導も必要である。	・特別支援教育コーディネーター
○支援を要する生徒の早期発見・早期対応	○「チーム鏡」で諸問題解決に組織で対応 「安心・安全でいじめのない学校・学級づくり」に努めている」の肯定的評価 85%以上	○学校評価保護者アンケートにおいて、「安心・安全でいじめのない学校・学級づくり」に努めている」の肯定的評価 85%以上	・支援会議の定期的な開催、職員間の「報・連・相」の徹底を図る。	A	○学校評価保護者アンケートにおいて、「安心・安全でいじめのない学校・学級づくり」に努めている」の肯定的評価87.0%。 ○支援会議を定期的に開催し、職員間の「報・連・相」の徹底を図った。	A	・鏡を立て直して頂いた先生方には感謝の言葉しかありません。今後も生徒たちと信頼関係をつくる指導を続けてください。	・生徒指導主事 ・教育相談主任
○SDGsの視点を意識した教育活動の展開	○SDGsの担い手となる人を育てる「質の高い教育の提供」	○SDGsを意識した教育の実践を心がけた教員が80%以上	・本年度の重点取り組みのすべてをSDGsに関連付け、職員及び生徒に適宜提示していく。	A	○SDGsを意識した教育の実践を心がけた教師81.4%。	A	・アフターコロナを見据え、SDGs(持続可能な社会をつくるために必要なこと)のうち、社会の担い手となる人を育ててほしい。	・各教科担当
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望								
・いじめや差別を見抜き、許さない人権・同和教育の推進を図る。 ・生徒の学習意欲を高め、学びに向かわせる授業を確立する。また、家庭と連携を図りながら、家庭学習の充実を目指す。 ・SDGsの視点を意識した教育活動を行い、防災教育に力を入れる。 ・タイムマネジメントを意識した教職員の働き方改革を推進し、業務の効率化と時間外勤務時間の削減を目指す。								